

令和7年度「かなざわ幼児教育みちしるべ」活用推進事業 「結果報告書」

施設名キッズアカデミー太陽こども園

【連携小学校】

田上こども園 済美幼稚園

【連携幼児教育施設】

金沢市立朝霧台小学校

【主な取り組み内容・経過】

- ・ 園内研修会や意見交換会の実施日や内容、テーマ、参加人数、メンバー等を記載してください
- ・ お子さんの姿や保育者、小学校の先生の思いも含め、具体的に記載してください
- ・ 写真や資料取り組みにおいて明らかになったことや成果、新たな課題等についても、できるだけ詳しく記入ください

・活動内容については別紙1 参照

・6月 学校公開参加 3園意見交換会～学校公開参加感想等

今回、初めて小学校の授業参観にじっくり参加し、卒園児の現在の姿を直接見る事ができた。在園時には落ち着きがなく、集団への指示が通りにくかった子が、授業では教師の話を聞き、課題に向かって取り組む姿が見られ、大きな成長を感じた。一方で、在園時には集団で安定して行動できていた子が、授業中に落ち着きのない様子を見せる場面もあり、環境や指導形態の違いによって子どもの姿が変化することを実感した。

公開週間参加後の3園による話し合いでは、こうした「意外な一面」が話題となり、保育者からは驚きの声が多く聞かれた。同時に、園での姿がすべてではなく、子どもは環境や関わりの中で多様な姿を見せながら成長していくことを改めて確認する機会となった。



・ 8月 幼保小合同カフェミーティング

～講義（星稜大教授 開氏）と意見交換会

小学校1年生の教員とこども園年長担任の保育教諭が、3つのグループに分かれて討議を行った。はじめは互いに緊張もあり、ややぎこちない雰囲気であったが、話し合いを重ねるうちに少しずつ打ち解け、普段はなかなか聞くことのできない学校での具体的な様子や指導の工夫について知ることができた。

園での子どもたちの姿や育ち、学校生活での様子や変化についても共有することができ、それぞれの立場から見た子どもの成長を確認する貴重な機会となった。実際に顔を合わせて対話することで相互理解が深まり、連携の大切さを改めて実感した。

今後もこのような機会を継続し、円滑な接続と子どもたちのよりよい育ちにつなげていきたいと感じた。



・ 11月 朝霧台小学校「年長さんを迎える会」参加

朝霧台小学校に入学予定の園児が参加した。今回は保育教諭が引率しない形であったため、不安を感じる子どもがいるのではないかと心配していた。しかし、1年生とペアになることで安心感を持つことができ、全員が楽しく学校探検に参加することができていた。

また、卒園した1年生の姿もあり、再会を喜び懐かしがる様子も見られた。実際に学校の雰囲気を体験することで、子どもたちにとって就学がより具体的なものとなり、期待や意欲が一層膨らんだのではないかと感じた。

話で聞くだけでなく、実際に見て体験する機会の大切さを改めて実感する機会となった。今後も小学校との連携を大切にし、子どもたちが安心して就学を迎えられるよう支援していきたい。



【令和7年度の活動の成果・考察】

近年、小学校における不登校の増加や、就学に対する保護者の不安の高まりが指摘されている。このような状況を踏まえ、本事業では、子どもが小学校へ移行する際の心理的・環境的負担を軽減し、安心して新たな学校生活を開始できるよう支援することを目的として取り組んだ。

また、就学前後における子どもの育ちや姿について関係者間で共通理解を図り、認識を共有することで、支援の連続性を確保し、円滑な接続を実現することを目的とした。まず、近隣3園で事前に協議の場を設け、小学校への移行に伴う課題や本事業の目的、活動内容について共通理解を図った。あらかじめ方向性を整理した上で小学校と協議を行ったことにより、小学校側にも円滑に趣旨をご理解いただき、連携体制を構築することができた。

さらに、金沢星稜大学の開先生をコーディネーターとして招き、専門的立場から助言をいただきながら協議を進めた。これにより、双方の意見を整理し、共通の視点のもとで建設的な意見交換を行うことができた。

加えて、園側は公開週間や教育ウィーク、授業参観への参加、年長担任による小学校授業体験等を通して、小学校における子どもたちの実際の様子を把握する機会を得た。また、年に数回実施した小学校教員との意見交換会では、就学後の子どもの様子や成長の姿について具体的に共有することができた。

実際の教育現場を参観し、直接教員の声を聞くことで、園側が抱いていた疑問や不安の多くが解消された。現場での具体的な姿を共有することの重要性と、対話を通じた相互理解の有効性を改めて確認することができた。

本事業を通して、園と小学校との間における情報共有の体制が整い、就学前後の子どもの育ちを継続的に捉える視点が醸成された。また、事前協議を重ねたことにより、相互の教育内容や指導観について理解が深まり、連携の基盤が構築された。

さらに、実際の授業参観や意見交換を通して、子どもたちの具体的な姿を共有できたことは、支援の方向性を明確にする上で大きな成果であった。園と小学校が同じ目標に向かって協働する意識が高まり、円滑な接続に向けた土台づくりにつながった。

【令和7年度の活動を終えての所感】

1. 近隣園との関係構築について

校区内の近隣園同士が顔の見える関係を築くことの重要性が明らかとなった。実際に交流を行うことで、各園が目指す保育の方向性は共通している一方で、具体的な取り組み方や保育内容にはそれぞれの特色があることを相互に理解することができた。

また、他園の実践を知ることにより、小学校におけるスタートカリキュラムの内容や意図についても理解が深まり、就学前後の教育のつながりをより具体的に捉えることができた。

2. 学校と園が気軽に話し合える関係づくり

本事業に取り組む以前は、学校側と子どもの育ちや様子について意見を交わす機会ほとんどなかった。しかし、本事業の中で複数回にわたり意見交換会を実施したことにより、双方が顔の見える関係を築くことができた。

その結果、気軽に相談や意見交換ができる環境が整い、子どもの姿や支援の在り方について互いの思いや考えを率直に伝え合えるようになった。これにより、就学前後の連携がより実質的なものとなった。

3. 「見る」「知る」ことの重要性

今年度は複数回にわたり小学校を訪問し、就学後の子どもたちの様子や成長の姿を実際に見る機会を得た。直接現場に足を運ぶことで、日常の学校生活の中で見られる具体的な行動や変容を把握することができた。

また、周囲からの情報や伝聞だけでは十分に理解できなかった部分についても、実際に自分の目で見ることにより、より正確かつ多面的に知ることができた。こうした経験は、就学前後の支援を考える上で大変有意義なものであった。

本事業を通して、園同士および園と小学校との間における連携体制が強化され、相互理解の深化が図られた。顔の見える関係の構築と、実際の姿を共有する機会の充実は、子どもが安心して小学校生活へ移行するための重要な基盤となるものである。今後も継続的な対話と交流を重ね、円滑な接続の実現に努めていきたい。

※この「結果報告書」は、資料として金沢市公式 HP や研修会等で公開させていただく予定です。

別紙 1 主な取り組み内容・経過～内容と参加人数～

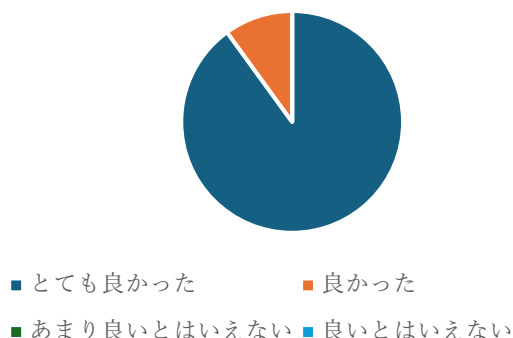
No.	実施内容	参加人数等
1	4 月 2 園打合せ ～幼保小連携・接続に向けて 1	太陽丘 2 田上 2
2	4 月 3 園打合せ ～幼保小連携・接続に向けて 2	済美 1 太陽丘 2 田上 2
3	4 月 朝霧台小「授業参観」参観	太陽丘 3
4	5 月 朝霧台小学校と 3 園の打合せ ～顔合わせ、連携・接続に向けて	済美 1 太陽丘 2 田上 2 朝霧台小 2
5	5 月 朝霧台小学校「運動会」見学	太陽丘 2 田上 4
6	5 月 開氏と 3 園の打合せ ～幼保小連携・接続に向けて 3	済美 1 太陽丘 2 田上 2 星稜大 1
7	6 月 学校公開参加 3 園意見交換会～学校公開参加感想等	済美 3 太陽丘 4 田上 4
8	6 月 小学校と 3 園合同意見交換会 ～小学校児童の様子等について	済美 3 太陽丘 4 田上 4 朝霧台小 4
9	6 月 幼児教育センター主催 幼保小合同研修 小学校教育との接続・相互理解	済美 1 太陽丘 1 田上 1 朝霧台小 1
10	8 月 幼保小合同カフェミーティング ～講義（星稜大教授 開氏）と意見交換会	済美 3 太陽丘 4 田上 4 朝霧台小 5 幼児教育センター 3 星稜大 1
11	8 月 小学校職員（校長等）による 3 園訪問	朝霧台小
12	10 月 幼児教育センター主催 幼保小連携強化研修（小学校体験）参加 ～ 1 日体験・授業体験・振り返り	済美 1 太陽丘 1 田上 1 朝霧台小
13	10 月～11 月 3 園公開保育 （10 月 済美/田上 11 月 太陽丘） ～校区内幼児教育施設を知る	済美 太陽丘 田上 朝霧台小 幼児教育センター 星稜大
14	10 月～11 月 3 園公開保育後の意見交換会 （10 月 済美/田上 11 月 太陽丘） ～公開保育後に意見交換を行う	済美 太陽丘 田上 幼児教育センター 星稜大
15	11 月 石川教育ウィーク	済美 太陽丘 田上
	石川教育ウィーク後の 3 園意見交換会	済美 2 太陽丘 4 田上 1
16	11 月 朝霧台小学校「年長さんを迎える会」参加	済美 園児・保護者 太陽丘 園児・職員 3 田上 園児・職員 2
17	1 月 朝霧台小学校と 3 園の打合せ ～ 1 年の振り返りと次年度に向けて	済美 2 太陽丘 2 田上 2 朝霧台小 2 幼児教育センター 1 星稜大 1
18	1 月～3 月 朝霧台小学校と情報交換 （年長児引継ぎ）	済美 太陽丘 田上

別紙2 主な取り組み内容・経過～アンケート～

幼保小連携 カフェミーティングアンケート（2025/8）

参加者数 20 アンケート回答者 20 （小学校、こども園、幼稚園、幼児教育センター）

1.参加感想

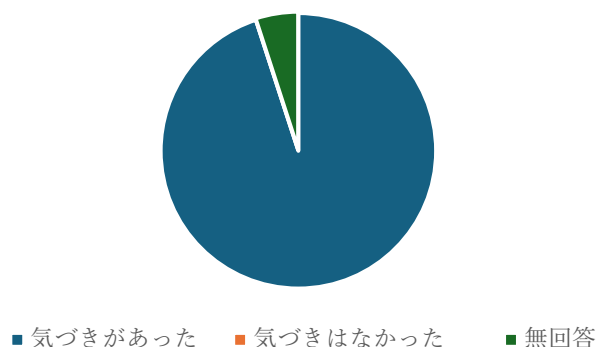


1.参加してみて

とても良かった	90%
良かった	10%
あまり良いとはいえない	0%
良いとはいえない	0%

参加者全員が、参加して良かったと感じていることが分かった

2.幼保小の違いや共通点についての気づき



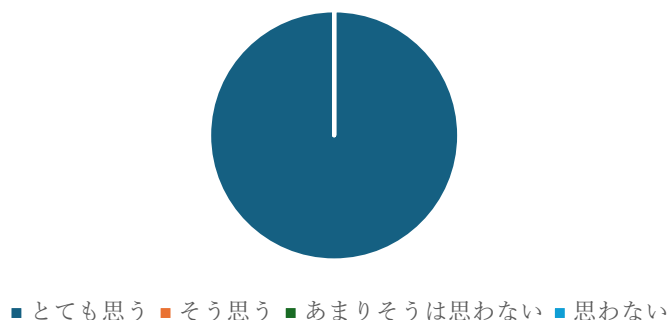
2.カフェミーティングで幼保小の「違い」や「共通点」について気づきはありましたか

気づきがあった	95%
気づきはなかった	0%
無回答	5%

それぞれの立場は違うが、お互いに「違い」や「共通点」に気づくことができたことが分かった

※詳細は下記参照

3.幼保小連携は必要か

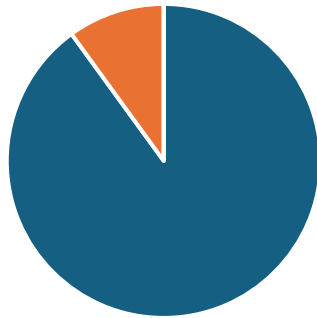


3.幼保小連携は必要だと感じていますか

とても思う	100%
そう思う	0%
あまりそうは思わない	0%
思わない	0%

参加者全員が必要性を感じていることが分かった

4. 幼保小の職員交流は必要か



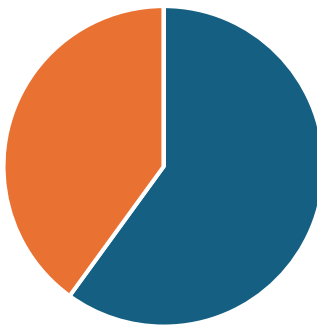
■ とても思う ■ そう思う ■ あまりそうは思わない ■ 思わない

4. 幼保小の職員交流は必要だと感じていますか

とても思う	90%
そう思う	10%
あまりそうは思わない	0%
思わない	0%

職員交流の必要性を感じていることが分かった

5. 幼保小の子どもの交流は必要か



■ とても思う ■ そう思う ■ あまりそうは思わない ■ 思わない

5. 幼保小の子どもの交流は必要だと感じていますか

とても思う	60%
そう思う	40%
あまりそうは思わない	0%
思わない	0%

子ども同士の交流の必要性を感じているが職員同士の交流よりはやや低いことが分かった

【カフェミーティングで幼保小の「違い」や「共通点」について気づきはありましたか】※一部抜粋

- ・子どもを中心として考えているところが共通点だと思った
- ・幼保と小は目指すものが違う。でも、方向性は同じなのだと思います
- ・幼児期に大切にしていることを小学校でも大切にしてくれることがあり安心した部分もあった
- ・子どもが出会った「なぜ」を先生からではなく、子ども自身で調べ解決していく共通点
- ・時間の使い方が異なり、保護者が柔軟性を求めてきたりする背景がわかった
- ・困っていることは共通なことが多かった

【その他】※一部抜粋

- ・とても有意義な交流会となり、幼稚園こども園での過ごし方、かかわり方が影響してくることがわかった。
- ・小学校や他園での話、小学校までに大切にしていけることは何なのかを改めて知ることが出来て勉強になりました
- ・園の先生方と共通の悩みが感じられ、手を取り合う大切さを感じた
- ・幼保小連携に向け、対面で意見交換できる場（それぞれの声を聴くこと）がありとても良かった
- ・普段の小学生や授業の様子を聞くことが出来てとても良かったです。年長担任として場が大変貴重だったし、気づきの多い学びある場となりました
- ・幼保でしっかり大切に育てられた子どもたちが小学校に入学してきているのだと改めて感じました

幼保小連携 年長担任アンケート（2025/12）

参加者数 5 アンケート回答者 5 （こども園、幼稚園の年長担任）

1. 連携・接続を通して、変化はありましたか

	変化を感じた	変化を感じなかった
小学校（教職員含む）への思いの変化	5	0
子ども（園児・小学生）への思いの変化	5	0
自分自身やクラス等、行動等の変化	5	0

『小学校（教職員含む）への思いの変化』 ※一部抜粋

- ・顔見知りになったことで話しやすくなり、連携が以前よりとりやすくなったように感じた。
- ・小学校の先生を近くに感じた
- ・授業（45 分）が 15 分単位で区切る等、工夫がされていることを知り、教科の 1 つでも様々な視点から学んでいることを知れてよかった。こども園と共通している部分も多々あった。

【子ども（園児・小学生）への思いの変化】 ※一部抜粋

- ・就学に向けて、先を見通して責任感が高まったように感じた。
- ・特別に違うわけではなく、繋げていくことが大切だと感じた
- ・学校公開では、卒園児の成長した姿や様子を見ることが出来て嬉しく思った。就学に向けて「〇〇をさせなければならない」ということはあまりないのではないかと思った
- ・幼児期の経験を小学校での学びにつなげ、子どもが負担なく小学校での生活を過ごせるよう保育を行っていきたいと思いました

【自分自身やクラス等、行動等の変化】 ※一部抜粋

- ・小学校へ向けてどのような事を目指すのか見通しを持ちやすくなった
- ・他園でしている事に新しい発見を感じ意欲を持てた
- ・子どもたちで話し合うこと、助け合うことを改めて大切にしたいと思い、その機会を作り見守った

2. 連携・接続を通してよかったこと、今後に期待したいことがあれば教えてください

【良かったこと】 ※一部抜粋

- ・今後も小学生の先生達と話し合う場があると、連携がとりやすくなるように感じた。
- ・園の子どもたちの未来の姿に見通しが持てた
- ・実際に様子を見たり話しあうことで互いにイメージが持ちやすく勝手な思い込みがなくなったと思う
- ・小学校側と園側でお互いの子どもの姿を見ながら援助方法や課題取り組みなど共有する場があり良かったと思う

【来年度以降に期待したいこと】 ※一部抜粋

- ・今年度行った連携を今後も続けていけると嬉しいです
- ・今年度行った小学校の先生達との懇談や話合いや 3 園との話し合いの時間が今後も継続してもらえるとう嬉しいです
- ・お互いに情報交換をすることはいいなと思います
- ・年長児も学校公開等で様子を見ることができれば、イメージをもつことができさらに良いと思った